

概要紹介 敷地内乾式貯蔵、避難に関する、京都府北部住民へのアンケートの結果

## 「乾式貯蔵の計画は知らない」「説明すべき」が約8割

- 乾式貯蔵に「反対」と「先に搬出先・貯蔵期間を決めるべき」の合計が約半数
- 老朽原発の運転継続に半数以上が「反対」
- 「これ以上核のゴミを子や孫に残したくない」



関電は高浜、大飯、美浜原発で敷地内乾式貯蔵の計画を進めています。乾式貯蔵施設ができれば、行き場のない核のゴミを増やすこととなり、老朽原発の運転が継続されることとなります。関電は施設の建設前には、福井県と立地3市町の事前了解を改めて得なければなりません。しかし他方で、周辺自治体には事前了解の権限はなく、住民の声を聴くこともありません。とりわけ京都府30km圏内には事故時の避難対象者が10万人を超えます。



市町	対象区域	対象世帯数	アンケート目標世帯数	アンケート実施数	訪問回数
綾部市	UPZ	3,939	197	199	4
京丹波町	UPZ	1,240	62	61	1
福知山市	UPZ	182	9	11	1
南丹市	UPZ	1,627	82	89	2
宮津市	UPZ	8,187	410	421	6
伊根町	UPZ	603	30	35	2
舞鶴市	PAZ	221	44	41	1
合計		15,999	834	857	17

このため私たちは、周辺住民の懸念や不安の声を可視化したいと考え、先行して計画が進められている高浜原発のUPZ圏（概ね30km圏）に入る京都府北部の7市町を戸別訪問し、アンケートを行いました。福井、関西の市民の協力も得て、6～11月でのべ73人が参加し、857枚のアンケートが集まりました（舞鶴市はPAZ・

準PAZ圏（概ね5km圏内）の全世帯数の約20%、他の6市町はUPZの全世帯数の約5%という目標をほぼ達成）。留守や断られることもあり、アンケート数の2～3倍の世帯を訪問しました。

設問は5つで、意見も書いてもらいました。アンケートを書いてもらった後に、乾式貯蔵に関するカラーリーフを渡し対話してきました。その中で、さまざまな思いを聴くことができました。

回答の大きな特徴は、約8割が乾式貯蔵の計画を知らず、住民へ説明が必要と考えていることです。また、乾式貯蔵や関電の進め方を批判する回答が約半数、老朽原発の運転継続に反対が半数以上でした。京都府はじめ福井県や周辺自治体が、この結果を尊重することを求めます。

### 【1】約半数もの人が複合災害時に避難や屋内退避は「できない」

1. 地震と同時に若狭の原発で事故が起これば、避難や屋内退避はできると思うか？



・約半数もの人が「できない」と回答。「できる」は11%にすぎない。

・「できない」と答えた理由：高齢のため、能登半島地震の被災地の状況を見て、山間部の地域では避難道が1本しかないため等。

「高齢、持病なので、集団避難に対して信頼できない」「ヒナンはノトを見れば、できないと思っている」「1つの道しかないから逃げている間にひばくする」等々。

・「分からない」も40%と多かった。能登半島地震を思い浮かべ、多くが悩みながら選択。

## 【2】約8割が敷地内乾式貯蔵の計画を「知らない」

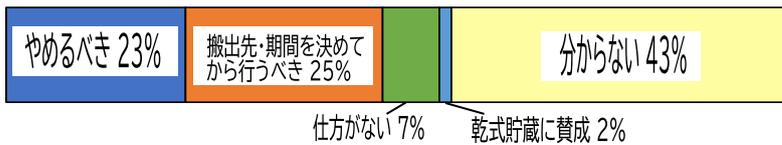
2. 使用済核燃料の乾式貯蔵計画を知っているか？



・78%が「知らない」。周辺住民の安全を脅かす施設の計画だが、知らされていない。

## 【3】「反対」「先に搬出先等を決めるべき」合計が約半数。「賛成」は極少数

3. 乾式貯蔵後の搬出先も貯蔵期間も明らかにしていない  
このままでは、使用済燃料が原発にたまり続ける可能性がある  
乾式貯蔵についてどう思うか？



・「乾式貯蔵はやめるべき」「搬出先・貯蔵期間を決めてから行うべき」が合わせて48%。搬出先も貯蔵期間も決めず、計画を進めていることへの批判が多い。後

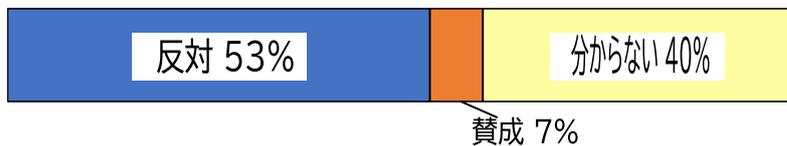
世に負の遺産を残したくないという意見を書く人が多かった。

「子供達に負の遺産は残してはいけない」「処理できない現状の中で、使用済み核燃料を貯蔵できる場を確保すれば解決する訳ではない」「原発はトイレのない家と同じ」等々。

- ・初めて聞いたということで、「分からない」も43%と多い。しかし、「分からない」という人でも、使用済燃料の行き先もなく原発を動かしていることを批判する意見もあった。

## 【4】古い原発の運転継続は半数以上が「反対」。「賛成」は1割未満

4. 乾式貯蔵ができれば、原発の運転が継続される可能性がある  
古い原発の運転継続をどう思うか？



・半数以上もの人が、古い原発の運転継続に「反対」。他方で「賛成」はわずか7%。

・「反対」の人は、「原発反対」「原発はすぐに止めるべき」等の意見を書く人が多かった。

核のゴミをこれ以上増やさないために原発を止めるべきとの意見もあった。

「『核のゴミ捨て場』・・・誰であっても自分達の近くにあるのはいやなもの。だからゴミを出さない為にも運転をすぐに！止めるべき」等。

- ・「分からない」も40%と多いが、悩みながらも原発はなくしたいとの思いも書かれていた。

## 【5】8割以上が住民への説明は「必要」

5. 避難計画や乾式貯蔵について  
電力会社や自治体から住民へ説明する必要があると思うか？



・82%が「説明すべき」。他の設問での「賛成」「反対」「分からない」等に関わらず、住民への説明は当然必要だと圧倒的多数が回答。

※詳細版は右URLかQRコードから⇒ <https://x.gd/8nYKF>



2024年12月12日 避難計画を案ずる関西連絡会

(この活動は、高木仁三郎市民科学基金からの助成を受けています)